

2025 年 1 月 5 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒231 番（SK 姉）

『奇しき主の光』

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 1~5、10~12、14、17~18 節（MM 姉）

『初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。』

言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。』

礼拝讃美歌⇒76 番（旧 34 番）

『神の御子イエス』

讃美歌（TM 兄）

『ガリラヤの風薫る丘で』

聖書⇒イザヤ書 57 章 15 節（ES 姉）

『高く、あがめられて、永遠にいまし／その名を聖と唱えられる方がこう言われる。わたしは、高く、聖なる所に住み／打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり／へりくだる霊の人に命を得させ／打ち砕かれた心の人に命を得させる。』

聖書⇒ルカによる福音書 15 章 18~20、22~24 節

『ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。

しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。』

< 祈 >

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 14~16, 26~29 節 (KH 兄)

『そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後どうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。』

(式)

礼拝讃美歌⇒144 番 (旧 59 番)

『憂きこと四方に』

《建徳》

聖書⇒ヨハネの黙示録/ 01 章 01 節 (KH 兄)

『イエス・キリストの黙示。この黙示は、**すぐにも**起こるはずのことを、神がその僕たちに示すためキリストにお与えになり、そして、キリストがその天使を送って僕ヨハネにお伝えになったものである。ヨハネは、神

の言葉とイエス・キリストの証し、すなわち、自分の見たすべてのことを証しした。この預言の言葉を朗読する人と、これを聞いて、中に記されたことを守る人たちとは幸いである。**時が迫っているからである。』**

聖書⇒ヨハネの黙示録 22 章 07、12、20 節

『見よ、わたしは**すぐ**に来る。この書物の預言の言葉を守る者は、幸いである。』

見よ、わたしは**すぐ**に来る。わたしは、報いを携えて来て、それぞれの行いに応じて報いる。

以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしは**すぐ**に来る。」アーメン、主イエスよ、来てください。』

聖書⇒マタイによる福音書 24 章 42~44 節

『だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。だから、あなたがたも用意していなさい。

人の子は**思いがけない時**に来るからである。』

聖書⇒マタイによる福音書 25 章 13 節

『だから、目を覚ましていなさい。**あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。』**

聖書⇒マタイによる福音書 25 章 2~12 節

『そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。愚かなおとめたちは、ともし火は持っていたが、油の用意をしていなかった。賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店に行って、自分の分を買って来なさい。』愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。その後で、ほかのおとめたちも来て、『御主人様、御主人様、開けてください』と言った。しかし主人は、『はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 01 章 05 節

『…わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に、』

聖書⇒詩編 32 編 8 節 (TM 兄)

『わたしはあなたを目覚めさせ／行くべき道を教えよう。あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう。』

聖書⇒イザヤ書 30 章 21 節

『あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。「これが行くべき道だ、ここを歩け／右に行け、左に行け」と。』

聖書⇒箴言 16 章 09 節

『人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。』

聖書⇒箴言 19 章 21 節

『人の心には多くの計らいがある。主の御旨のみが実現する。』

聖書⇒エレミヤ書 32 章 17 節

『「ああ、主なる神よ、あなたは大きいなる力を振るい、腕を伸ばして天と地を造られました。あなたの御力の及ばない事は何一つありません。』

礼拝讃美歌⇒195 番（旧 106 番）（KH 兄）

『夜は更け行き』

《建徳要旨》